



ねこじゃらしの野原

あわなおこ ぶん
安房直子 / 文

たに まち のとうふ屋さんには、さまざまなお客がやってきます。すずめ、ねずみ、きつね、木の精。とうふ屋さん一家をめぐる、美しい6つのファンタジー。



ゆうすげ村の小さな旅館

もいちくみこ さく
茂市久美子 / 作

ゆうすげ村で『ゆうすげ旅館』という小さな旅館を営むつぼみさん。そこへいろいろな人たちが泊まりにきます。こんな旅館があったらステキ！



てんぷらぴりぴり

まど・みちお

にちじょう せいかつ そく だいざい し
日常の生活に即した題材の詩が多い絵本です。夕食のおかずのてんぷらをあげる音を「ぴりぴり」と表現。ほかにも素敵な表現がたくさんあります。



はな さき山

さいとうりゅうすけ さく
齋藤隆介 / 作

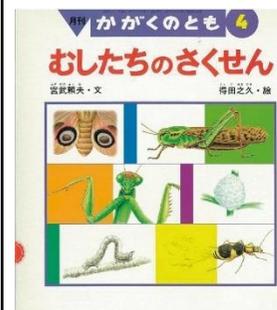
10歳のあやは、ご馳走の山菜を取りに行った山で、村人から恐れられている“やまんば”と遭遇します。「誰かを思って行動する」との大切さが分かる本です。



だてだてのおばあさん

さ の ようこ さく
佐野洋子 / 作

「だてわたしはおばあさんだから。」がロクぐせのおばあさん。99歳の誕生日にろうそくがたりなくて、おばあさんは5歳になりました。新しい生活がはじまります。



むしたちのさくせん

みやたけより お ぶん
宮武頼夫 / 文

「かくれんぼ作戦」や、「変身さくせん」など、小さな虫たちが自分の身を守るための一生懸命の知恵を紹介している本です。

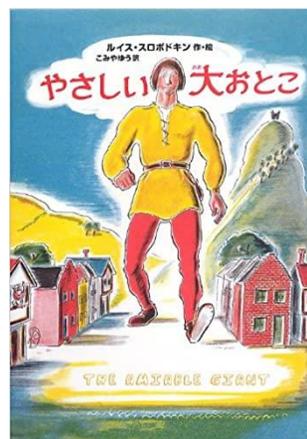


ちびドラゴンのおくりもの

イリーナ・コルシュノフ / 作

さかよしんいち やく
酒寄進一 / 訳

地の底の国から、ちびドラゴンがやってきた。ケーキやチョコが好き、絵もかきたいと、人間のまねが大好きなドラゴンの活躍。

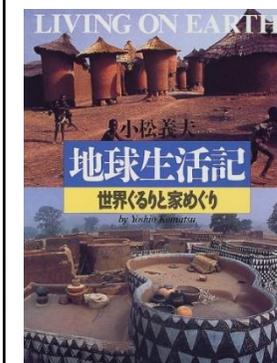


やさしい大おとこ

ルイス・スロボトキン / 作

こみやゆう / 訳

山の上にすむ大おとこが、ふもの村の人たちと友だちになりたいたと思っていました。でも、声が大きすぎて、村人は聞きとれません。



せかい 世界ぐるりと家めぐり

こまつよしお ぶん
小松義夫 / 文

模様のある家、鳩小屋つきの家、水の上の家、地中の家、カラフルだけどあちこちひび割れた家…。家を見ると世界の様々なことが分かります。